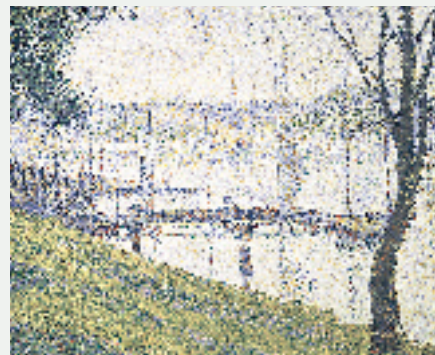


NEWS

SEIJI TOGO MEMORIAL
SOMPO JAPAN MUSEUM OF ART



スーラと新印象派 Georges Seurat et le Néo-Impressionnisme 1885-1905 清澄な光と色彩の世界 2002年10月26日(土) 12月8日(日)



上：
ジョルジュ・スーラ 《パ・ピユタンの砂浜、オンフルール》
1886年

下左：
ジョルジュ・スーラ 《「シャコ踊り」のための習作》
1889-1890年
The Courtauld Institute Gallery, Somerset House, London

下右：
ジョルジュ・スーラ 《クールブヴォワの橋》
1886年冬 1887年
The Courtauld Institute Gallery, Somerset House, London

第25回安田火災東郷青児美術館大賞受賞記念

煌く刻 和田義彦展

9月21日(土)~10月20日(日)

毎年、前年に活躍した画家の作品1点を選出する安田火災東郷青児美術館大賞。今回で第25回目の受賞者となった和田義彦氏の展覧会が9月21日より開催される。

和田義彦氏は1940年、三重県生まれ。東京芸術大学大学院油画科を修了後、1972年にイタリア政府給費留学生としてイタリアに渡り、ローマ美術学校、次いでローマ国立中央修復学校において古典技法と修復技術を学んだ。ヨーロッパ滞在中はイタリアだけでなくスペインの美術館で古典絵画を模写、その研究模写を通じてヨーロッパの伝統的な絵画技法の習得につとめた。1977年に帰国、個展をはじめ諸展覧会で作品を発表し、名古屋芸術大学教授として本年6月まで教鞭をとった。近年では作家森村誠一氏の書籍表



紙画や新聞連載小説の挿絵などを手がけ、その評価も高い。

和田の作品に描かれる人物群像や女性像、あるいはカフェやレストランの風景は、劇中の一場面のような、非リアルな雰囲気を感じ出している。しかし、何より先和田氏の特長である優れたデッサン力によって的確に把握されたこれらの人物・情景には、重厚な色使いと強い陰影のコントラストという独特の色彩感覚とあいまって、深い内面性と象徴性が感じられる。

和田氏の作品は常に技法の探求につとめる画家自身の軌跡を体現していると言える。今回の受賞作《想》(2001年)においても、絵画技法に対する画家の自己探求ともいえる追求の痕跡が伺え、今回の授賞となった。

本展覧会では、東京芸術大学在学中の作品から始まり、研究模写を含むイタリア滞在中の作品、そして新作まで、約70余点の作品が展示される。加えて挿絵の原画約20点が展示され、和田義彦氏の画業に迫る展覧会となる。

未来を担う美術家たち

「DOMANI・明日」展2003 文化庁芸術家在外研修の成果

2003年1月25日(土)~3月2日(日)

文化庁では、日本の芸術界を支える芸術家を育てることを目的に、昭和42(1967)年度から若手芸術家を海外に派遣し研修の機会を提供する「芸術家在外研修」を実施しています。派遣される研修員の専門分野は、美術、音楽、舞踏、演劇、映画、舞台美術及びアートマネージメント等のあらゆる方面に渡っており、研修期間は80日から3年間に及びます。

これまでに大学をはじめとする教育機



関・工房などに派遣された研修員は、1600人以上を数え、各分野で研修を修了した者の多くは、いまや日本の芸術界をリードする存在として国内外で活躍しています。

美術分野での「芸術家在外研修」成果発表の場として開催する展覧会が「DOMANI・明日」展です。それぞれの作家が帰国後制作した作品を出品し、海外で吸収した成果を披露するものです。日本の美術界の将来を担う作家たちへの期待を込めて、イタリア語の「明日」を意味する「DOMANI(ドマーニ)」と名づけられたこの展覧会は、今度で第6回目を迎えようとしています。

「DOMANI・明日」展は、文化庁、当美術財団、読売新聞社の主催により、平成9(1997)年度より開始しました。第1回は洋

画部門、第2回は日本画部門、第3回はそれ以外の版画・写真などの平面作品部門、第4回は彫刻部門を開催、そして第5回では在外研修員制度の発足35周年記念展として、第1回派遣の奥谷博をはじめとする洋画、日本画、版画各部門の第一線で活躍している作家57名の作品を紹介しました。

第6回展として開催予定の「DOMANI・明日」展2003では、これまでの展覧会で各部門を一巡りしたこともあり、再び洋画部門からの展覧となります。第1回展の洋画部門では平成2(1990)年度から平成6(1994)年度の研修員の作品展示であったのに対し、第6回展では平成7(1995)年度から平成11(1999)年度派遣の研修員の中から若手約10名の洋画家が出品し、研修の成果を発表します。

2002年8月1日(木) 9月16日(月) 特別展 中村コレクション秘蔵の名品 コロー、ミレー バルビゾンの巨匠たち展

パリ東南のフォンテーヌブローの森やバルビゾン村を描いた詩情豊かな103点を、国内有数のコレクションから。東京では初公開です。
月曜休館(但し、9月16日は開館)午前9時30分～午後5時(金曜日は午後7時まで)入館は閉館の30分前まで
入館料=一般1,000円(800円)/大・高生600円(500円)、(内は前売および20名以上の団体料金/シルバー(65歳以上)800円/中・小学生無料)

2002年9月21日(土) 10月20日(日) 第25回安田火災東郷青児美術館大賞受賞記念 きらめきとき 和田義彦展

安田火災東郷青児美術館大賞の第25回目の受賞者、和田義彦氏の展覧会。研究模写や挿絵の原画を含めた東京芸術大学在学中の作品から新作までを展示します。
月曜休館(但し、9月23日、10月14日は開館)午前9時30分～午後5時 入館は4時30分まで
入館料=一般500円/大・高生300円(20名以上の団体は各100円引)/中・小学生無料
10月1日(火)は「損保ジャパンのお客様感謝デー」として無料開館します

閉館時間が変わります

2002年10月26日(土) 12月8日(日) 特別展 スーラと新印象派 清澄な光と色彩の世界

科学的な色彩理論によって印象派の超克を志した新印象派を、中心的画家スーラと、フランス、ベルギー等の賛同者達の103点で紹介いたします。
月曜休館(但し、11月4日は開館)午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで)入館は閉館の30分前まで
入館料=一般1,200円(1,000円)/大・高生900円(700円)(内は前売および20名以上の団体料金/シルバー(65歳以上)1,000円/中・小学生無料)

館内工事のため、臨時休館します

2003年1月25日(土) 3月2日(日) 未来を担う美術家たち「DOMANI・明日」展2003 文化庁芸術家在外研修の成果

文化庁が実施している若手芸術家の海外研修の成果を発表。本年度は洋画部門の平成7～11年度研修修了者の中から10余名の作品を紹介いたします。
月曜休館 午前10時～午後6時 入館は5時30分まで
入館料=一般500円/大・高生300円(20名以上の団体は各100円引)/中・小学生無料

2003年3月15日(土) 4月20日(日) 第22回損保ジャパン美術財団選抜奨励展

2001年9月から2002年8月まで、各美術団体の展覧会絵画部門における受賞作、および全国の推薦委員により推薦された絵画作品を展示。
月曜休館 午前10時～午後6時 入館は5時30分まで
入館料=一般500円/大・高生300円(20名以上の団体は各100円引)/中・小学生無料

TOPICS

館名変更について

当美術館・財団の設立母体である「安田火災海上保険株式会社」が、2002年7月1日、「日産火災海上保険株式会社」と合併し「株式会社損害保険ジャパン(略称: 損保ジャパン)」として新たにスタートしたのに伴い、同日付けで「安田火災東郷青児美術館」とその運営主体である「財団法人 安田火災美術財団」も下記のとおり名称変更いたしました。

[新名称]

損保ジャパン東郷青児美術館
英語名:
SEIJI TOGO MEMORIAL SOMPO JAPAN
MUSEUM OF ART

財団法人 損保ジャパン美術財団
英語名:
SOMPO JAPAN ART FOUNDATION

鷹山宇一記念美術館で

「東郷青児展」開催

2002年7月20日～9月16日

青森県上北郡七戸町の町制施行百周年記念として、当館所蔵の東郷青児作品の油彩、素描、彫刻あわせて100点余りによる「東郷青児展」が七戸町立鷹山宇一記念美術館で開催されています。鷹山宇一は1908年青森県に生まれ、シュルレアリスムの傾向の版画から始めて、風景と静物を組み合わせた幻想的な油彩を描きました。戦後、二科会の再建時に東郷の呼びかけに応じて会員となり、東郷が没するまで交流を続けました。本展は「鷹山宇一と仲間たち...」という位置付けで開催される展覧会の第一弾です。



ミュージアムショップから

ミュージアムショップで販売しているグッズの中でも、特に贈答用として好評を博しているのが、七宝焼きの風合いで原画に近い色彩を表現する「ペーパー七宝加工」を施した「金のしおり(単価1000円)」「銀のしおり(単価800円)」です。一番人気のゴッホの「ひまわり」をはじめ、東郷青児の「望郷」「花炎」「蝶」など8種類

を用意しています。また、類似品としてレリーフ状に型抜きをした「ひまわり」のしおりもございますので、ぜひご利用ください。
*大量注文の際には、在庫確認のため事前のご連絡をお願いします。
03-3349-3081(代)

10月26日から閉館時間が変わります

2002年10月26日に始まる「スーラと新印象派」展から、閉館時間がこれまでより30分遅い午前10時からになります。そのぶん閉館時間を1時間延長し、夕方6時までゆっくりとご覧いただけるようになります。ぜひ美術館まで足をのばしてください。

スーラと新印象派 Georges Seurat et le Néo-Impressionnisme 1885-1905

清澄な光と色彩の世界

印象派は、パレット上での混色を極力避け、遠目に混じって見えるように並置して外光の輝きをうたいあげた。そこに同時代の科学的な研究成果を導入し、色の組み合わせや線の形が生む効果を厳密に体系化しようとしたのが、新印象派である。創始者スーラは31歳という短い生涯の中で、うつろう一瞬に魅せられた印象派の即興性を克服し、画面に計算された輝きと明確な形をもたらそうとした。彼と賛同者達の作品はベルギーの活動的なグループ^{レ・ヴァン}の展覧会に招かれ、新印象主義は瞬く間に近隣諸国に広まった。一時的にせよ傾倒した画家には、ゴッホ、マティス、カンディンスキーなども含まれる。目に映る色彩を複数の純色に分解し、再構成する抽象的な作業を経験した彼らは、じきに、労力を要するそのシステムから離れ、より自由な色彩の表現力をひきだしていった。新

印象主義は、フォービズム、表現主義、キュビズム、未来派などに広範な影響を与え、のちに様々な展開をみせる20世紀の美術思想のひとつの原点となった、注目すべき造形思考なのである。

しかし、夭折したスーラはもちろん、他の画家の新印象主義の作品も稀少かつ世界中に散在しており、大回顧展は少ない(国内では1985年以来今回で二度目)。特に日本では長い間、印象派の圧倒的な人気の陰に隠れてしまい、正当に評価されてきたとはいえない。本展は、スーラ作品12点をはじめ、シニャックやピサロ父子などフランスの賛同者からベルギーの画家達までを含めた23作家の作品103点を世界各地約70ヶ所から集め、歴史的、理論的な視点から、この豊かで複雑な運動を紹介しようとするものである。

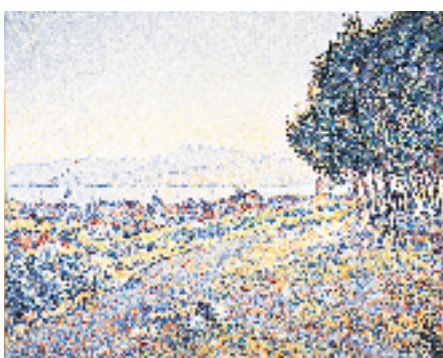
スーラが新印象主義のマニフェストともいえる《グランド・ジャット島の日曜日の午後》を発表した1886年当時、パリには、度重なる階級抗争によって社会崩壊への危機感が蔓延し、「調和」「統合」という言葉が切実な響きをもっていた。それらは新印象派の作品にも反映しており、シニャックやクロスの作品にはユートピア的なイメージが見いだせる。スーラ自身も調和を求めた。そもそも、彼の生み出した技法そのものが、「科学」という新進の明晰な思考を適用することによって画面内での「調和」の具現を目指した思想表現であったともいえる。もっとも、スーラは都会の扇情的な興業にも興味を示し、また全長3mに及ぶ《グランド...》も、理想的イメージと社会批判という相反する解釈を許す複雑さをもっている。しかし、これらの大作はどれも絵具層の物理的なもろさゆえに運搬が難しく、今回の展示の主眼は、彼の風景画と、プライベートな習作にある。自らは光彩主義と呼んだ彩色技法がより自在に用いられ、清澄な光に満たされた静かな風景や海景は、「光は心を癒してくれる」と語ったスーラが希求したヴィジョンを、むしろ素直に伝えてくれる。その寡黙な詩情は、喧しい世相と社会不安という、当時と相似た時代に生きる我々の心の奥にも、深い印象を残すことと思う。



アンリ・エドモン・クロス
《地中海のほどり》 1895年
Collection Walter F. Brown, U.S.A. photo: Steven Tucker



フィンセント・ファン・ゴッホ
《セーヌ川とグランド・ジャット島の橋》 1887年夏
Van Gogh Museum (Vincent van Gogh Foundation), Amsterdam



ポール・シニャック
《サン・トロベの松林》 1892年
宮崎県立美術館蔵



展示資料:
ルイ・アイエ《8つの補色環図 色彩環より》 1890-1892年
J. L. Mabitt

学芸員によるギャラリートーク

一般対象

11月8日(金) 17:30 ~
11月16日(土) 15:00 ~

小中学生とその父母対象

11月9日(土) 13:30 ~
11月16日(土) 13:30 ~

会期中、作品解説用に音声ガイドの貸し出し(有料)を行っております。